

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.49 (2020.4.27)

令和2年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
全てのステークホルダーの満足度向上
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

猛威を振るっている新型コロナのさなかではありますが、第58期がスタートしました。世の中のほとんどすべての会議が中止となる中、当社でも4月の定例会議を中止しました。一方でこのような時こそ新たな取り組みが重要として、最新のツールを使用したWEB会議を試行しております。

さて人類と感染症との戦いの歴史について、興味深い記事が有りましたので紹介します。

- ① 2600年前の中国でペストが発生、シルクロードを経て欧州にもたらされ、中世の欧州で全人口の3分の1が死亡。
- ② 8世紀に朝鮮半島の新羅から伝わった天然痘は平城京に蔓延、当時の人口の25～35%に当たる100～150万人が亡くなり、聖武天皇は国家の安寧を願い奈良の大仏の造立を命じた。
- ③ 13～16世紀にかけて繁栄し最盛期に人口600万人のインカ帝国は200名足らずのスペイン人によりあっという間に滅ぼされたが、インカ帝国では少し前にスペイン人がもたらした天然痘が大流行し人口が激減し弱体化していた。
- ④ 1918-1920年にアメリカで発生したインフルエンザ（通称スペインかぜ）では世界中で5億人が感染し数千万にのぼる死者が発生、結果として第一次世界大戦を終結させた。。
- ⑤ 2002年中国から発生したSARS(重症急性呼吸器症候群)は世界で感染者8000人超、死者774人。
2012年MERS(中東呼吸器症候群)が中東で発生、韓国等に広がり世界で感染者約2500人、死者858人。

上記以外にも発疹チフスや腸チフス・梅毒・赤痢などに苦しめられた時代もあり、人類は長い歴史の中でウイルスによる感染症と戦ってきたのだということが良くわかりました。昔と違って現代はヒト・モノ・カネが国境を越えて往来するグローバル化の時代であり、そのような状況下で各国が突然鎖国をしたようなもので世界経済へのダメージは計り知れません。一方で世界の医学者や科学者が最先端の研究で治療薬やワクチンを開発していることも事実であり、必ずや劇的な治療方法や予防方法が確立されるものと思います。ただしそれが半年なのか一年なのかあるいはそれ以上なのかは誰にもわかりません。

3月31日の朝日新聞に京都大学名誉教授の佐伯啓思先生は「現代文明かくも脆弱」と題して次の様に寄稿されておりました。「今回のような新型の病原体の出現は、リスクではなく不確実性である。その時かろうじて頼りになるのは、政府や報道ではなく、われわれのもつ一種の「常識」や「良識」であろう。」今私たちにとって重要な行動は安易に国や行政を批判するのではなく、まさに常識と良識を持つことなのだと思います。

もしコロナかなの症状が出たら	STAY HOME		
1. 上司や会社に連絡して自宅待機 2. 直接病院には行かず、かかりつけ医が <table><tr><td data-bbox="97 1854 399 1966">いる場合は ↓ 医師に連絡して指示を受ける</td><td data-bbox="399 1854 874 2080">いない場合は ↓ あきた帰国者・接触者相談センターに電話 電話 018-866-7050 (24 時間対応) 電話 018-895-9176 (午前 9 ～ 17 時)</td></tr></table>	いる場合は ↓ 医師に連絡して指示を受ける	いない場合は ↓ あきた帰国者・接触者相談センターに電話 電話 018-866-7050 (24 時間対応) 電話 018-895-9176 (午前 9 ～ 17 時)	ゴールデンウィークに入りますが、ここは出かけた気持ちでぐっと抑えて家にいましょう。まずは当社からは絶対に感染者を出さないようにという気持ちを全員が持つて、人が多くいる場所には絶対に行かない。部屋の換気を十分に行う。手洗い消毒をこまめに行う。会話をする場合はマスクをつけて2mの距離を確保しましょう！ 
いる場合は ↓ 医師に連絡して指示を受ける	いない場合は ↓ あきた帰国者・接触者相談センターに電話 電話 018-866-7050 (24 時間対応) 電話 018-895-9176 (午前 9 ～ 17 時)		